

JR東海労ニュース

一方的な休日出勤反対！

闘争シリーズ No.39

No. 787 2006年2月1日

JR東海労働組合

いつまで一方的に休日出勤させるのか、ふざけるのもいい加減にしろ！

「休日出勤解消の見込みを現時点で示すのは困難なことだ」

【メンツにこだわりFAXでお知らせ】

本部は1月27日、闘申第27号「新幹線乗務員の需給対策（お知らせ）」で業務委員会を開催しました。このお知らせは、JR東海労の職場からのストライキをはじめとした一方的な休日出勤反対のたたかいが、会社をして休日出勤解消の新たな対策を提示させたのです。しかし会社は、このことを認めたくないからこそ、正式回答ではなく、FAXという姑息な手段をとらざるを得なかったのです。

【具体的数値・解消目途を明らかにしろ！】

会社は、東京・新大阪駅のホーム検査体制を見直し業務委託したり、乗務員経験のあるOBや若年退職者を雇用し、乗務員を確保するとしています。これらによって何名の乗務員を生み出すのか、休日出勤解消時期についても、「現時点で見込みを示すことは困難」と業務委員会で一切明らかにしませんでした。

JR東海労のたたかいによって、「新幹線乗務員の需給対策」を示させたとはいえ、効率化で要員を生み出すことも含まれています。休日出勤解消の時期は示さず、しかし効率化だけは、しっかり行う会社の姿勢を絶対に認めることはできません。

一方的な休日出勤の解消のため、たたかいを継続しよう！

休日出勤解消のため、
事業管理所、
出向者を乗務員に戻せ！